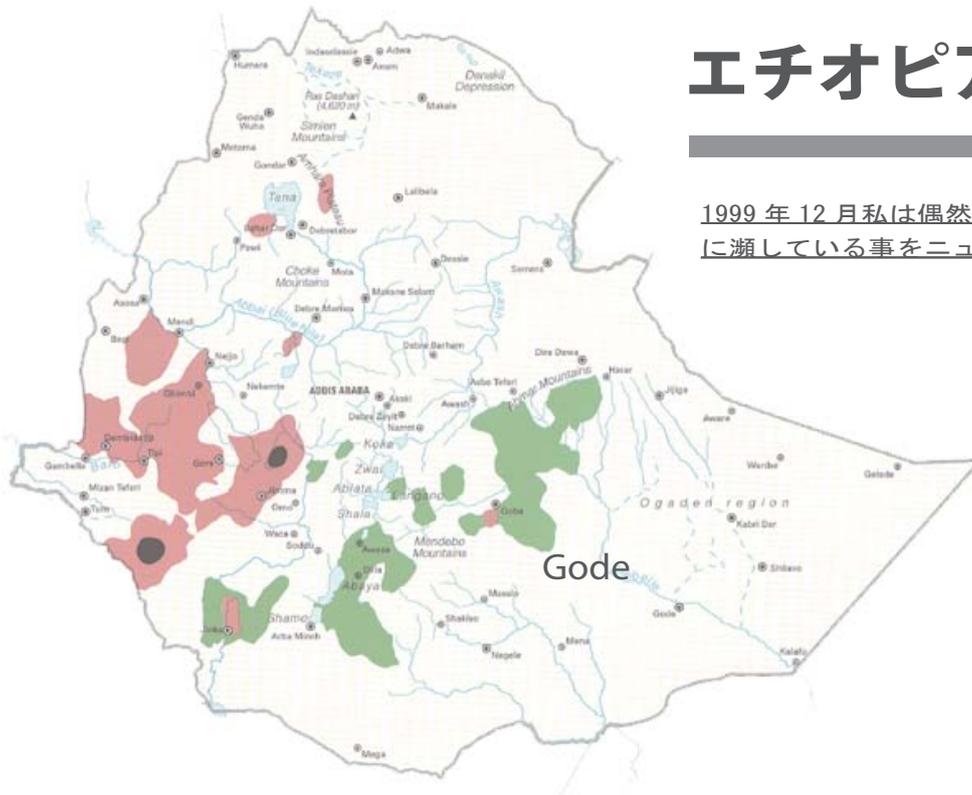


エチオピアとの出会い

1999年12月私は偶然エチオピア南部で干ばつに瀕している事をニュースで知りました。



1999年が終る12月の末、私は偶然エチオピア南部では、干ばつによる飢餓で1000万人の人々が生命の危機に瀕しているというニュースを聞き、胸がざわめきました。更に情報を取ろうとしても、掴めずに年が明けました。春、広島にいる時、再び仲間からこの事を聞き、いてもたってもいられなくなり、エチオピア大使館を訪ねました。当時参事官の人に会い、実情を聞くと、大変な干ばつで水がないので死に繋がる緊急事態になっているとの事です。その内、日本の報道機関に報道して欲しいと頼んでもしてくれないと嘆き、怒りを表わす口調になっているのです。そしてエチオピアが干ばつに見舞われてからの出来事を語り始めました。干ばつが来る事はわかっている事だから手を打ってはいるけれど、させてくれない世界の状況があると私に訴えてくるのです。救援物資を紛争地域に送ってくるので、飢餓で苦しむ人々の所には辿り着かないと嘆き、「子供でもわかる事を何故するのか」と怒ります。私達に何が出来ますかと尋ねると、飢餓を繰り返す社会の仕組みを改善して欲しいとはっきりおっしゃいました。私は興奮し武者震いしていました。社会を改善する為に何をしたら良いのかと更に尋ねると、「事実を知る事から始まる」と更にきっぱりおっしゃり、直ぐに「あなた達に事実を知る勇気がありますか」と向かってきたのです。私は当たり前だと瞬時に答えていました。事実を知る事は私の望むところであると答え、エチオピアへ行く事が決まりました。